

広報

くびきの

第75号

ときわ会上越支部
令和6年6月

鵜ノ池水上回廊(上越市大潟区)

少数だからこそ精鋭になれる！

支部長 中村 英雄 (H3年度)



5月11日に開催された支部総会は、本部より山田浩之ときわ会長をお招きし、また、OBの皆様からご参加いただき、令和6年度上越支部の幕開けにふさわしい活気に満ちたスタートとなりました。

今年度は、これまで上越支部を牽引されてきた茂木徹前支部長の思いや願いの詰まった三つのキーワード「温故知新 主体性 貢献」を継承しながら、「未来に向けた上越支部のニューノーマル」を創っていくため、会員の新しい視点が生み出す創造力を大切にしていきます。

私たちは縁あって、上越地域に勤務しています。上越の子どもたちと、われわれ教師自身のウェルビーイング実現を目指して、未来に向けたチャレンジをしてもらいたい。上越の教育の振興に積極的に寄与できる教師を目指してもらいたい。これが私の願いです。

これから地域教育の発展や人材育成、所属年度等

にも主体的に関わり貢献するといった気概をもって取り組む姿を皆さんには大いに期待します。

上越支部は、他支部に比べるとマンパワーという点では劣るかもしれませんが、しかし、会員一人一人が主役となって活躍しやすい環境は整っていると思います。会員の思いや願いをカタチにしやすい支部であることは間違いありません。「少数だからこそ精鋭になれる」それが上越支部の特色であり、魅力でもあります。山田会長からは本部理事会で「人数は少ないけれども、若い力がみなぎっていて活気あふれる上越支部会員のこれからの活躍が期待できる」というメッセージをいただきました。

いよいよ、ときわ会151年目という「新しいステージ」の幕が開きました。未来に向けた展望をもち、主体的に創造的に教育活動をしていくことで新たな時代を切り開いていきましょう。ときわ会上越支部の新しい時代を切り開くのは会員の皆さん一人一人です。